

桐蔭生涯学習センター受講者に対する意識調査

An opinion poll for Toin Lifelong Learning Center's students

中丸 久一

桐蔭横浜大学工学部電子情報工学科

(2007 年 3 月 1 日 受理)

1. はじめに

人は元来知的好奇心を持っているものであるが、加齢と共にその意欲は薄らいでいくのではないかと思われている。その学習意欲を高めるために、多くの生涯教育のシステムが構築されている。それらを列挙してみると、次のようなものが存在する。放送大学、新聞社等が行なっているカルチャーセンター、地域社会・区役所等で行なっている講座、県単位で行なっている生涯学習、大学等で行なっている講座、個人で行なっている塾、通信講座、その他いろいろあり、列挙できないほどである。このように多くの教育機関があるのは、それだけニーズがあるからに違いない。

神奈川県では「平成 18 年度県の生涯学習推進施策について」という資料を作成し、県民が県のホームページ上から、県内で行なっている生涯学習について検索できるようになっている。

生涯学習といっても、その内容に大きな違いがある。趣味としてのもの、資格取得としてのもの、研究的なもの、その他数えたらきりがないほどである。本大学には「桐蔭生涯学習センター」という生涯学習をめざしたものがある。ここにそれを紹介し、学習者の意

識を調査し、さらに今後の「あるべき生涯学習」を考えていきたい。「桐蔭生涯学習センター」の講師の多くは、桐蔭横浜大学の教員であり、その研究成果を紹介しながら講座を進めている。大学とは数キロメートル離れた田園都市線「市ヶ尾駅」の近くの桐蔭生涯学習センター専用の施設において行われ、1 年を 3 期に分けて講座が行なわれている。3 期に分かれているのは、大学の授業の妨げにならないよう考慮したためである。

講座内容は参考 1 (文末) に示すが、大きく分けて次のように分類できる。

学問的なもの：哲学、歴史等。

語学：英語・英会話・中国語・スペイン語。英会話はネイティブの人と大学教員が行なっている。

実技に重点をおいたもの：短歌、フルート、写真、絵画、朗読。

パソコン講座：初心者対象、中級者対象となっている。

著者は初心者にパソコンを教えている。

今回、桐蔭生涯学習センターで受講している人たちがどのような目的と意識を持っているかを、参考 2 (文末) で示したようなアンケート用紙で調査を実施した。この調査は、受講者の個人的な情報を得るものではなく、今後の生涯学習を考えていくためのものであ

るので、無記名とし、回答は自由意志に任せ強制はしないように配慮した。このアンケートから生涯学習の意義を見つけていき、筆者が行なっているパソコン教室をも参考にし、あるべき生涯学習を考えていきたい。

2. アンケート結果

桐蔭生涯学習センターで開講しているのは24講座であり、受講者数は220名(2007年1月～3月期)在籍。受講者の意識調査をするため、参考2(文末)のようなアンケート用紙を配り、このうち77名の受講者からアンケートの回答をいただいた。このアンケートは強要するものではなく、回答の有無は受講者に委ねている。

受講者の最高齢・最も若い年齢・平均年齢

最高齢80歳	最年少29歳	平均58.5歳
--------	--------	---------

表1 受講者の年齢

を表1に示す。生涯学習センターと銘打っている関係上、平均年齢は比較的高く、若い人がほとんど見られない。最高年齢は、回答をいただいた人では80歳が最高となっている。80歳が最高年齢なのは、このセンターが駅から10分程度かかることも影響していると思う。

男女別の平均年齢を表2に示す。女性の平

	平均年齢(才)
全体(69名)	58.5
男性(26名)	67.4
女性(43名)	56.4

表2 男女の平均年齢

均年齢は男性の平均年齢より11歳程度若い。これは、男性の受講者にリタイヤした人が多いのと、女性に専業主婦の人が多くことからいえることである。

表3に受講者の受講年数、表4に職業の有

受講年数(年)	5	4	3	2	1	0・無回答
人数(名)	2	5	15	24	16	15

平均受講年数 1.9年

表3 受講年数

	職あり	職なし	主婦	リタイヤ	その他
男性	7(27%)	19(73%)		16	3
女性	11(25%)	33(75%)	24	2	7

表4 職業の有無

無について示す。受講者の受講年数の平均は1.9年と2年弱である。これは、ひとたび受講したら継続して受講する傾向があるということである。職業の有無については、男女とも25%前後が職を持っている。これは、職業の合間をもって受講している人が多いということである。男性はリタイヤ後に受講している人が多く、女性は主婦が多い。これが、平均年齢で11歳の差となっている。

表5に「その講座を受講した理由」を示し

	人数(人)	割合(%)
学んでみたい講座	52	66
講座の先生の魅力	27	35
前回の講座の続き	23	30
家が近い	15	19
その時間帯が取れる	13	17
センターからのお知らせ	9	12
新聞の折込	6	8
友達が来ている	3	4
口コミ	0	0
その他	4	5

表5 講座を受講した理由

た(回答者77名、複数回答可)。当然ながら、その講座が「学んでみたい講座」というのが

1位で66%の人が理由としてあげている。「講座の先生の魅力」というのが35%で2位であり、桐蔭生涯学習センターの講師に魅力があることを示している。また、継続した内容の講座が多いことと、語学が多いので「前回の講座の続き」を30%の人がその理由に選んでいる。続いて、「家が近い」、「その時間帯の時間が取れる」としてあげているのは、主婦と仕事を持っている人が多いことから言える。以外だったのは「友達が来ているから」と答えた人が少なかったことと、「口コミ」を理由にあげた人がまったくいないということであった。これは、何を意味しているか考えてみたい。受講の意思は、自分だけに関係することなので、友達との会話の中で生涯学習センターでの受講が話題にならなかったことを意味している。「友達が来ているから」が少ないのも、同じ理由からであろう。このことに関しては、他の質問から考察できるので後で述べる。

毎週の講座が「楽しみにになっている」と答えた人は77人中73名で、残りの4名は、「なんともいえない」と答えている。「楽しみではない」というのは0人であり当然といえば当然の回答である。勉強は苦しくてもやらねばならぬという考えは、生涯学習に関しては皆無とみてよいのかと思う。

表6は「毎週の講座が楽しみにになっている」

	人数(人)	割合(%)
講座が楽しい	49	64
雰囲気が楽しい	36	47
先生に会うのが楽しい	28	36
自分自身が向上していると思えるから	28	36
内容が理解できて楽しい	26	34
友達と会うのが楽しい	16	21
その他	3	4

表6 講座が楽しい理由

と答えた人の理由である(複数回答可)。「講座そのものが楽しい」と答えた人が64%と

多く、「雰囲気が楽しい」、「先生に会うのが楽しい」、「自分自身が向上していると思えるから」、「内容が理解できるから」と続いている。ここでも「友達と会うのが楽しい」、は20%程度で比較的少ない。それでも講座受講理由で友達が来ているからと答えたのと比べると、4%→21%と増加している。これは、講座を受講することによって友達になったことを意味しているものと思え、講座がコミュニケーションを高める役目をし、その結果友達になり、その友達と会うのが楽しくなったということであろう。

なによりも心配なのは、「受講者が講座を

	人数(人)	割合(%)
負担になることがある	11	15
負担になることはない	55	78
なんともいえない	5	7

表7 講座が負担になることがあるか

続けていくのが負担になるかどうか」である。表7にその結果を示す。80%弱の人は負担を感じることなく講座を受講している。負担と感じると答えた人の回答のうち2名が「日常の仕事とダブル」と答えている。「日常の仕事とダブル」と答えた人は、もっと多いと思っていたが以外と少なかった。それ以外では「時間が取りにくい」、「講座内容が難しい」、「友達がいない」、「思うように勉強ができない」、「家が遠い」が各1名いた。それ以外は無回答であった。「負担になることがない」と答えた人が意外と多い印象を持った。

「今後も今受講している講座を続けるかど

	人数(人)	割合(%)
続けたい	61	79
続けない	0	0
未定	12	16
無回答	4	5

表8 今後も続けるか

うか」の質問には、約 80%の受講生が「続けたい」という意思をもっている。「続けない」と答えた人は皆無だが、実際は「無回答」が「続けない」という意思であろう。調査した時期は、講座が始まってから 2～3 週間であるので、受講回数が進むにつれて変化がでてきている可能性もある。

講座で「生きがいが見つかったか」という

	人数(人)	割合(%)
見つかった	31	40
見つからなかった	0	0
なんともいえない	38	50
無回答	8	10

表9 講座で生きがいが見つかったか

大上段に構えた質問に対する回答を表 9 に示す。「見つかった」と答えた人が 40%、「なんともいえない」が 50%である。質問が質問だけに、「なんともいえない」が半数だったが、「見つかった」も多い。学ぶ喜びを感じているのだな、という印象をもった。「無回答」の中に、「見つからなかった」が含まれているものと思われる。

学習が楽しいことか、苦しいことかという

	人数(人)	割合(%)
楽しいこと	69	90
苦しいこと	1	1
なんともいえない	3	4
無回答	4	5

表10 学習は楽しいことか、苦しいことか

質問に対する回答を表 10 に示す。「楽しいと答えた」人が 90%である。寸暇を惜しんで講座を受けていくには、楽しくなければ続かないと思う。当然の数字と思う。同じ質問を、受験生にしたらどうだろうか。おそらくこのような数字はでてこないと思える。「苦しい」と答えた人が 1 名いたことにかえてほっと

した感じがする。

桐蔭生涯学習センター以外の講座等を受講している人は 77 人中 23 名 (30%) いる。これらの講座は多岐にわたっている。桐蔭との比較も一長一短ありどちらともいえないというのが一番多かった。こうした人は他の講座を受講しているので、見る目は厳しく正当性もあり、耳を傾けていく必要があると感じている。

以上、アンケートをまとめてみたが、そのまとめ方は筆者の独善性もあるので、お叱りを受ける所存である。このアンケート調査が桐蔭生涯学習センターの今後の講座と、受講者の今後の指針に少しでもお役に立てば筆者のこの上ない喜びである。

3. パソコン講座

筆者が行っている講座である、パソコン講座は 2 講座あり、ひとつは「デジタル絵日記講座」という講座名で開講しているもので、これはパソコンの応用講座であり、毎回異なる内容でリピーターを対象としていて講座名も毎回異なる。もうひとつの講座は「パソコンに触れてみよう」という講座名で初心者を対象としたもので筆者が担当している。この講座は、元々はパソコンに触れたことのない人を対象として始めたもので、3・4 年前は、10 名以上の受講者がいたものであったが、近年受講者が減ってきている。これは、パソコンが多く広まり、まったくの初心者が減ってきたからと思える。最近の受講者の傾向としては、次のようなケースが多くなっている。

ア) 前回に続けての受講。
イ) ワードでの文章作成の経験はあるが、パソコンでの文章作成は未経験で、以前作成したワードのデータをパソコンに移植したい。

ア) に関しては、初級の「パソコンに触れてみよう」が終了後は、中級講座で次のステップの勉強をしてもらえばよいと思っていたのだが、初級の講座、それも前回と同じ内容の講座の受講を希望してきている傾向が出てき

ている。そこに意識の違いがあったようである。私にとっては、一度講座で教えたことは受講者は理解していることであって、同じ内容を繰り返して教えることは失礼に当たると思っていたのである。ところが、受講者にとっては、そうではなく、一度の受講だけでは到底理解できるものではなく、繰り返し勉強することで身につくものであるという意識が働いているようである。これは、「テニススクール」での繰り返しの練習に似ている考え方である。「テニススクール」では、以前学んだからといって、その技術は習得しているので、もう教える必要はない、という考え方ではない。繰り返し練習することで始めて身につくものであるという考え方である。パソコンもまったく同じで繰り返すことで身につくものという考え方である。これは事実であろう。私自身においてもこれは当てはまる。パソコンの手法は多くあり、一度できたからといって、いつまでも覚えているというものではない。繰り返し使っている技術は、すぐに使うことができるが、頻度が少ない技術はそのつど勉強し直さなくてはならない。私自身がそうであるので、受講者にとってはなおさらであろう。このことによりやく気がついた次第であり、受講者から教わった次第である。

イ) に関しては、今後さらに多くなる感じがする。10年前までは日本語の文章作成は、ワードプロセッサ（以下ワープロと表示）で行われていた。パソコンは「一太郎」というソフトを購入して始めてワープロとしての機能が追加できた。当時としては、パソコンでのワープロの使用はパソコンをワープロ以外で使用していた人々によって利用されていた程度である。多くの人たちはワープロ専用機に日本語の文章作成を委ねていた。それが、1995年のウインドウズ95の出現によって大きな様変わりがあった。購入時のパソコンにワープロソフトがすでに入っているのである。これを期に日本語の文章作成はワープロからパソコンに移っていき、いつしかワープロの生産は終了していった。ワープロで日

本語文章を作成する人は年々減少してきている。また、ワープロでは入力にはキーボードだけであったのだが、パソコンではマウスという慣れない人にはとても厄介なものでも入力しなければならなくなった。これが、ワープロ愛用者がパソコンに踏み込めない理由のひとつである。ワープロ愛用者はワープロに愛着を持っていたのだが、ここへきて事態は変わってきた。ワープロ本体の寿命がきたのである。故障したら最後直せないのである。メーカーにも部品の在庫がなく、さらにワープロに携わった技術者がいなくなり修理ができない状態になってきたのである。このため、ワープロ使用者がパソコンに移行し始め、パソコン講座を受講し始めたのである。この傾向は、今後しばらくは続くものと思われる。

ウ) 今後のパソコン講座。

パソコンは日進月歩進化し続けているので、3年も経てば旧式になってしまう傾向がある。桐蔭生涯学習センターのパソコンも次期の講座から新しい機種に入れ替えていく予定である。それに伴い、教える内容も多岐に渡るものが可能になる。今後は、受講者のニーズに応えながら、受講者が貴重な時間を楽しく講師と共有できることを最大の目的としていきたい。

4. 結論

桐蔭生涯学習センターに通ってくる人は、学ぶ意欲を持っていることのほかに、この時間を大切にしたいという気持ちを持っていると思う。学習することに生きがいを見つけようとしていると思われる。

さらに桐蔭生涯学習センターで学ぶ受講者のアンケートと談話室等での会話を通して感じることは、「歳を重ねることは、老いることではなく、経験を積むことなのだ」である。

生涯教育とは何か、ようやく結論が出た。生涯教育とは「経験によって、自分自身を教育していくことだ」と。教育は教育されることではなく、自らが自らを教育していく。こ

れが教育である。その際、自分が経験したことがないことは、経験した人から知識を得てもよからう。その知識を、今まで生きてきた経験に照らし合わせて再構築すればよいのである。それが生涯教育と思っている。

5. 謝辞

桐蔭生涯学習センターで学ぶ受講者の皆さん、アンケートのご協力ありがとうございます

した。また、桐蔭生涯学習センター長の赤堀先生、アンケート実施を許可していただきありがとうございます。事務の折原さん、荒川さん、澤さん、アンケートの配布、回収に骨をおっていただきありがとうございます。皆さんのご協力がなければ、この調査はできないものでした。お礼申し上げます。

参考1) 桐蔭生涯学習センター 2006年度第IV期 講座一覧

講座番号	講座名	受講者数	
1	現代と宗教	22	
2	短歌 実作の楽しみ	9	
3	風土記を読む(1)	6	
4	人間の心の歴史 —現代史の諸相—	11	
5	日中関係史(中) —歴史上では良好な関係が長かった隣国—	3	
6	朗読基礎コース	4	
7	朗読を楽しむ	10	6の継続
8	はじめてのスペイン語 —文化と共に学ぶ—	7	
9	入門・初級中国語会話 <対象:初心者>	7	
10	初・中級中国語会話 <対象:継続者または経験者>	8	9の継続
11	英語1年生 —中学レベル—	10	
12	英語1年生 —高校1～2年生レベル—	4	11の継続
13	学びなおす英語 —中級程度—	13	
14	学びなおす英語 —上級程度—	15	13の継続
15	Focus on Communication —はじめからの英会話—	10	
16	English is fun! —初級英会話—	10	
18	You Can Do it in English! —中級英会話—	11	
19	Advanced English Conversation —上級英会話—	10	
20	パソコンに触れてみよう (パソコン入門)	5	
21	デジタル絵日記講座	5	
22	初めての写真講座 (一眼レフ入門)	5	
23	楽しい写真講座	11	22の継続
24	やさしいフルーツアンサンブル	12	
25	楽しい絵画教室	4	
	合計	212	

15～18はネイティブスピーカー

